

人生の転換点

尹明淑

私は2008年来日し、今年、横浜国立大学大学院に進学しました。来日当初は、家族を含む周囲の人々から反対されました。立派な大学学歴を持って国内で就職したほうがよいのではないかといわれました。国内の生活は楽ではありますが、人生の経験を豊かにしたいこともあり、動揺せず日本留学を選択しました。

今になって考えてみれば、最初の手続きから来日及び無事に大学院まで進学できたことは、日本語学校の先生のご指導とお世話があってこそ成し遂げられたことだと痛感しています。

来日する前は、既に日本語を学び日本語能力試験一級にも合格し、当初、日本語学校はゼロから教えてくれるので日本語の基礎がある私にとっては時間の無駄で、大学院に進学するひとつのステップでしかないと思いました。しかし、日本に来てから、買い物をする時には「ありがとうございます」という簡単な日常会話しか聞き取れなかったことは思ってもいませんでした。以降、会話をすることは至難の業で、国内で学んだものはぜんぜん役に立たなかったのです。そこで私は、語学学校の先生から改めて日本語を学ぶことにしました。日本語の先生から日本文化を含むネイティブな日本語の授業を受けてからは日本語について改めて認識し、自分の努力を重ねた結果、少しずつ日本語に対して興味を持ち始め自信も持つようになりました。その後からは、自ら電話をしたり、面接したりしてアルバイトを見つけたりしました。大学院面接試験では、会話は障害になりませんでした。私の経験で言えば、国内で日本語を学んだ学生でも、また学んでいなかった学生全ては、来日したら初心者の気持ちで努力しなければならないと感じたということです。ですから、日本語学校はビザの取得、大学・大学院に進学するだけのステップではなく、日本で近い将来無事に生活できることを保障することを学ぶ場所でもあると思います。

現在私は大学院の一年生ですが、大学院の授業が非常に忙しく毎週授業ではほとんど発表と小論文を完成しなければなりません。毎週少なくとも一日は徹夜してから授業に行き、休み時間があってもアルバイトで学費と生活費を稼がなければなりません。毎週一日でもゆっくり休める日はありません。しかし、体が多少疲れても生活は充実していると感じます。日本は比較的公平で本人が努力すれば報われる環境があると個人的に感じています。

かつて後悔したり、迷ったりしたことがあり、これからも更なる試練が待ち受けていますが、あきらめず後悔しないようにしたいと思います。日本での毎日の苦労は私の人生の糧になり、これからも困難を乗り越えて行きたいと考えています。

最後になりますが、この機会を通して語学学校の校長先生、丁先生、担任の先生及びすべての先生に感謝の意を表したいと思います。先生たちの助けとご指導がなかったら、現在の自分がないはずで、先生方々本当にありがとうございました。